

# 磐井中学校 第3回学校運営支援協議会

期 日 令和8年2月25日(水)

時 間 午後2時00分～

場 所 校長室

## 次 第

進行：主幹教諭

- 1 開会
- 2 校長挨拶
- 3 報告
  - (1) 今年度の学習指導について
  - (2) 今年度の生徒指導について
- 4 協議
  - (1) 学校評価について
  - (2) 令和8年度学校経営方針について
  - (3) その他
- 5 その他
- 6 閉会



《令和7年度 磐井中学校 学校運営支援協議会委員》

入	駒		智	様	
菊	池	達	也	様	
小	野	寺	邦	芳	様
小	野	寺	康	光	様
鈴	木	綾	子	様	
澤	田	直	哉	様	
加	藤		清	様	

<自ら求めて学び、未来を拓く生徒の育成> (知性)

	まなびフェストの内容	本校における取組	現在の状況
磐井中学校の取組	<p>&lt;磨く知性&gt;</p> <p>◎わかる授業を展開します。 生徒の肯定的評価目標 70%</p> <p>◎ペアやグループなど、共同学習を活性化させます。 生徒の肯定的評価目標 80%</p>	<p>1 基本的な学習過程を定着させ、自分の考えを表現する場の充実に努める。</p> <p>①学習課題とまとめを提示し、振り返りを位置づけて、学びを自覚させる。</p> <p>②数学の授業を中心とした少人数指導・チームティーチングを実践する。</p> <p>③互見授業の積極的な開催など、教科部会を充実させる。(各教科1研究授業)</p> <p>2 共同学習の充実に図り、探究的な学習の質を高める。</p> <p>①総合的な学習の時間「いわいタイム」の体系化を図り、個人テーマをもとにした、教科横断的な学習に取り組ませる。</p> <p>②地域に貢献する人材育成に向けたキャリア教育を充実させる。</p> <p>③地域人材の積極的活動を図り、魅力のある体験活動を行う。</p>	<p><b>1 授業・家庭学習の取り組み</b> 全体的に落ち着いた中で、前向きに授業に取り組んでいる。</p> <p><b>1学年</b> 2学期頃から全体として落ち着いて学習に向かえるようになってきている。グループ活動に一生懸命に取り組む様子が見られる。</p> <p><b>2学年</b> 全クラスとも仲間と協力しながら学習課題の解決に向け取り組む様子が見られる。</p> <p><b>3学年</b> 卒業後を見据えて、全クラスで落ち着いた態度で授業に臨む姿が見られる。</p> <p><b>2 授業について</b> 研究主題を「生徒エージェンシーを育む授業の在り方」とし、振り返り活動を重点として授業力向上に向け取り組んだ。 また数学科では学習支援員が、生徒個々に合わせた補充説明を行うなど、授業の理解度の向上に取り組んだ。</p> <p><b>3 総合的な学習の時間について</b> 1学年は「自分に向き合う13歳」と題して、6月から一関の災害と陸前高田の震災被害について、9月には一関について学んだ。 2学年は「社会に学ぶ14歳」と題して、7月第1週に市内各所の事業所において社会体験学習を行った。 3学年は「地域につながる15歳」と題して、地元の防災や食文化、ものづくりなどを体験した。2～3学期には「地域活性化プロジェクト」と題して地域の魅力アップのための提案書・企画書を作り、発表を行った。 各学年とも、一関で活躍されている方を講師として招き、テーマについて考えを深めることができた。</p> <p><b>5 その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習委員会で、予想問題を作成し定期テスト前の朝学習で活用した。</li> <li>・各学年で家庭学習ノートの展示を行い、家庭学習の内容の充実に図った。</li> </ul>

【生活面】 ～令和7年度 一関市立磐井中学校 学校経営基本構想より～

一関市立磐井中学校

	目指す像の内容 《本年度の重点より》	本校における取り組み	現在の状況
学	自他を敬愛し、思いやりのある生徒《豊かな感性(徳)》	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 明るい返事や挨拶ができる生徒</li> <li>2 他者と共感できる生徒</li> <li>3 自他の個性を認め、励まし合い助け合う生徒</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期生徒会活動では、各学級での挨拶運動や応援団の挨拶運動などが展開されている。挨拶を自ら行う生徒は少なく感じているため、教師側が進んで声をかけるようにしている。</li> <li>・生徒会取り組みで、誕生日を祝う活動や感謝の手紙を交換し合う活動をしている。</li> <li>・いじめ撲滅宣言や人権講演会を通して、相手を思いやることについて考える機会を設けた。</li> <li>・運動会では、リーダーを中心に組織的な活動を行うことができた。文化祭では、合唱を柱に学級の団結力を高めることができた。</li> </ul>
校	自ら心身を鍛え、逞しく実行する生徒《鍛える身体(体)》	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基本的な運動、食、生活習慣を身に付けた生徒</li> <li>2 自らの行動をコントロールできる生徒</li> <li>3 物事をやり抜く生徒</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラルに関する講演をKODIに依頼し、実施した。危険性について理解を深めた。メディアの過度な利用が生活習慣や心身の健康に関与していることを確認した。</li> <li>・夜遅くまでスマホを使用している生徒や、メディアに関するルールがない家庭が多くみられ、トラブルや欠席、遅刻の理由になっていないか心配である。</li> <li>・部活動の所属は強制ではなく、奨励としている。校外活動部の生徒が増加している。特設部への参加を促し、駅伝、合唱など最後までやり遂げ、成果も上げることができた。</li> <li>・休日型地域部活動への移行が進んでいる。本校では、現在7つの活動で休日型部活動となっている。</li> </ul>

	<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談やいじめアンケートを通して、生徒の実態を早期に把握する手立てを行っている。</li> <li>・今年度のいじめ案件の報告数は15件。経過観察中である。</li> <li>・今年度の問題行動も数件あったが全て指導済みである。ゲームセンター、カラオケ等、保護者が同伴していないケースがある。</li> <li>・交通安全教室の実施、PTAと連携した朝の交通安全指導、鍵かけの呼びかけの実施を通して、事故に対する意識を高める指導をしている。</li> </ul>
--	------------	--

## 令和7年度 第2回学校評価アンケート（総括）

### 1 対象

生徒 377名 保護者 306名 職員 32名

### 2 質問項目と肯定的な評価

( ) は第1回

	項 目	生 徒	保 護 者	教 職 員
【磨く知性】	1 筋道を立てて考え、「なぜそう思うか」を話すことができる。	80% (75%)	65% (59%)	56% (31%)
	2 自分の気持ちや考えを、相手にわかるように話すことができる。	83% (84%)	69% (67%)	53% (50%)
	3 学校で学んだことを、普段の生活や新たに体験する場面で使おうとしている。	85% (87%)	79% (76%)	65% (66%)
【豊かな感性】	4 明るい声で、挨拶や返事ができる。	78% (83%)	72% (76%)	69% (69%)
	5 相手がどう思っているかを考え、気持ちを分かち合うことができる。	91% (87%)	85% (76%)	72% (62%)
	6 一人ひとりの違いを認め合い、互いに助け合っている。	94% (90%)	87% (82%)	84% (85%)
【鍛える身体】	7 運動・食事・睡眠など、健康に良い生活を送っている。	78% (83%)	71% (85%)	69% (69%)
	8 感情にまかせず、自分の行動を自分でコントロールすることができる。	85% (88%)	72% (77%)	59% (62%)
	9 途中で投げ出さず、最後までやり抜くことができる。	81% (87%)	75% (76%)	72% (77%)
【学校の到達目標】	10 学校は、学習内容が理解できるようにすすめている。	90% (90%)	83% (85%)	100% (96%)
	11 学校は、ペア学習やグループ学習で、友達と練習したり友達と考えを伝え合ったりする場面を多くつくっている。	90% (94%)	90% (96%)	97% (95%)
	12 学校は（生徒会活動を含む）、登校した時や朝の短学活での挨拶が元気にできるよう取り組んでいる。	87% (88%)	90% (91%)	88% (86%)
	13 学校は、さまざまな立場や考え方の人の範疇を聞く機会をつくっている。	91% (90%)	89% (86%)	94% (96%)
	14 学校は、健康な体をつくるための食事や睡眠などの生活習慣の大切さを学ぶ機会がある。	93% (91%)	91% (83%)	94% (96%)
	15 学校は、テレビを見すぎたり、インターネットやSNSを使いすぎると、心や体に影響があることを学ぶ機会がある。	89% (84%)	86% (82%)	87% (93%)

## 2 成果と課題

### (1) 磨く知性

「筋道を立てて考え、なぜそう思うかを話すことができる」「自分の気持ちや考えを、相手にわかるように話すことができる」の2項目について、第1回目のアンケート調査と同様、保護者、教職員ともに低評価となっていることが顕著な傾向としてあげられます。この2項目は、集団生活を行う上での基礎となる資質であり、将来的に社会人として論理的な思考のもとに計画を立案したり、作業を行ったりしていくうえで不可欠な資質であると考えられます。今後さらに、教科の指導や学級活動、行事など、横断的な活動を通し、生徒の発達段階に応じた成長を促すようにしていきたいと思います。

### (2) 豊かな感性

「相手はどう思っているかを考え、気持ちを分かち合うことができる」「一人ひとりの違いを認め合い、互いに助け合っている。」の2項目が、第1回目と比較して、高評価か、ほぼ同様の評価となっています。個々に見ればさまざまな問題が発生することがあるせよ、磐井中学校には、お互いを尊重した穏やかで落ち着いた雰囲気の中で校内生活を送っている生徒が多いことが伺われます。これからも、お互いを尊重し、大切に関わることができる磐井中生でありたいものだと思います。

### (3) 鍛える身体

「感情にまかせず、自分の行動を自分でコントロールすることができる。」の教員の評価が59%と低評価となっています。保護者の評価も、72%とやや低めです。一方、生徒の評価は85%となっており、第1回目と同様、教員や保護者と、生徒との間にギャップが見られます。「感情にまかせず、自分の行動を自分でコントロールすることができる。」とは、具体的にはどのようなことであるのか、それぞれの学年の発達段階に応じた中学生としてののぞましい姿を、具体的にイメージできるように指導していく必要があると考えます。

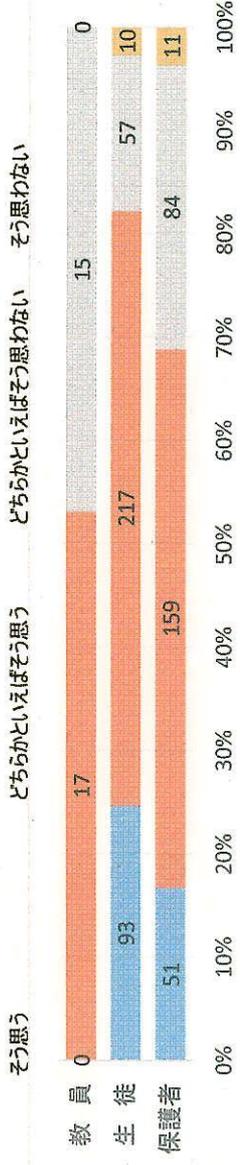
### (4) 学校の到達目標

第1回と同様、「学校は、テレビを見すぎたり、インターネットやSNSを使いすぎると、心や体に影響が出ることを学ぶ機会がある。」の項目が、他の項目と比較して、やや低めとなっています。ICT機器の利用状況に関する別なアンケート調査からは、長時間の使用が常態化していることが伺われます。学校で学ぶ機会はあるものの、実際の生活の向上に活かすことができていないことが、評価が低めとなっている要因の一つではないかと推測します。

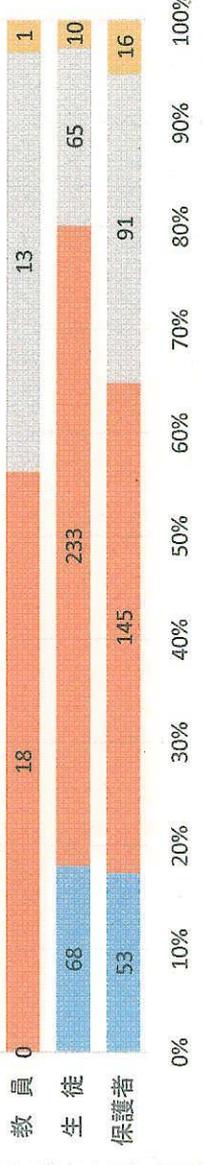
それ以外の項目は、生徒・保護者・教職員ともに、80%後半か、90%台の高評価となっています。磐井中学校のさまざまな活動のねらいが理解され、生徒の成長につながる取り組みが多くできたものと思います。今後も、保護者の皆様に磐井中学校の取り組みをご理解いただけるよう、各種通信やHPなどを活用して紹介していきたいと思います。

# 令和7年度 磐井中学校第2回学校評価アンケート 内訳

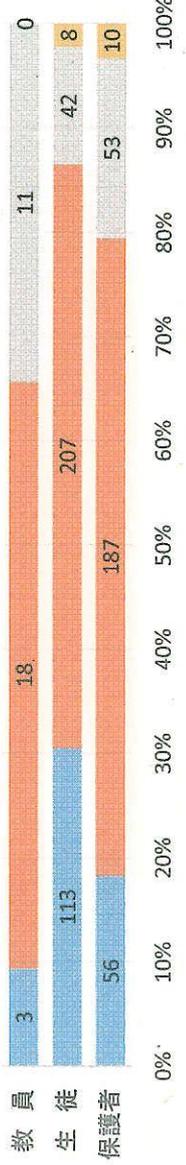
1. 筋道を立てて考え、「なぜそう思うか」を話すことができる。



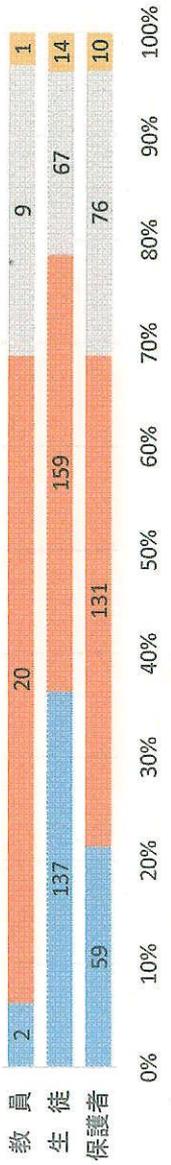
2. 自分の気持ちや考えを、相手にわかるように話すことができる。



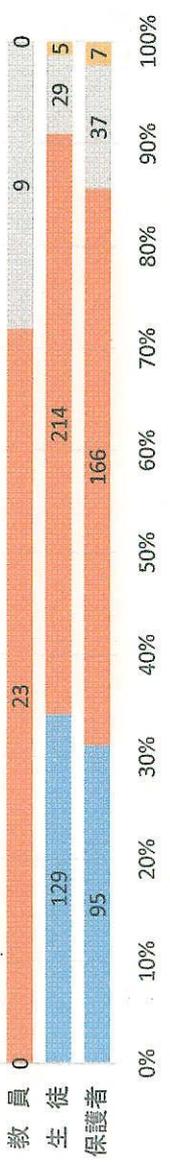
3. 学校で学んだことを、普段の生活や新たに体験する場面で使おうとしている。



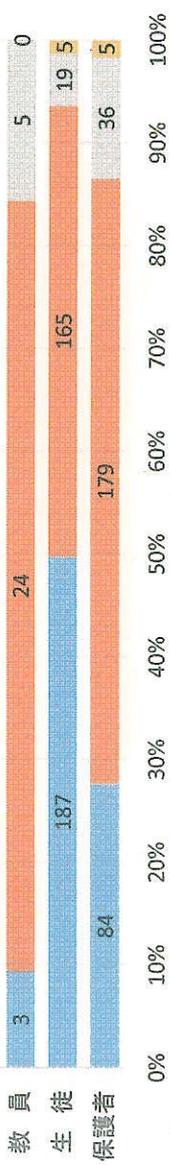
4. 明るい声で、挨拶や返事ができる。



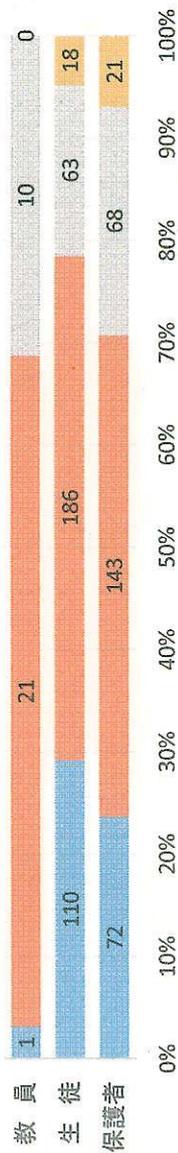
5. 相手はどう思うかを考えて、気持ちを分かち合えることができる。



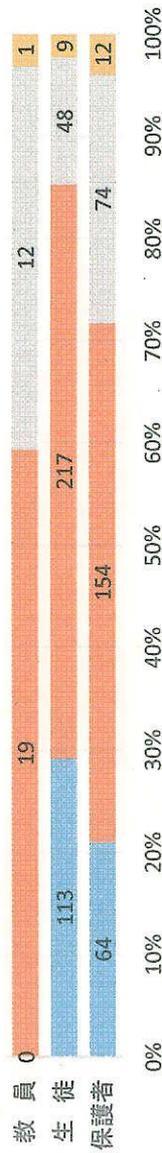
6. 一人ひとりの違いを認め合い、互いに助け合っている。



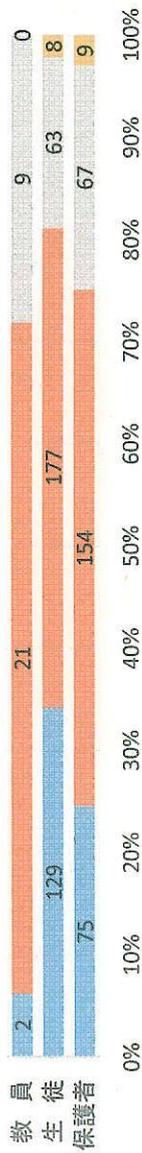
7. 運動・食事・睡眠など、健康に良い生活を送っている。



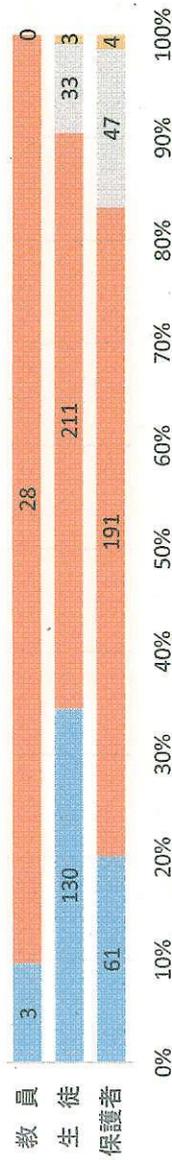
8. 自分の行動をコントロールすることができる。



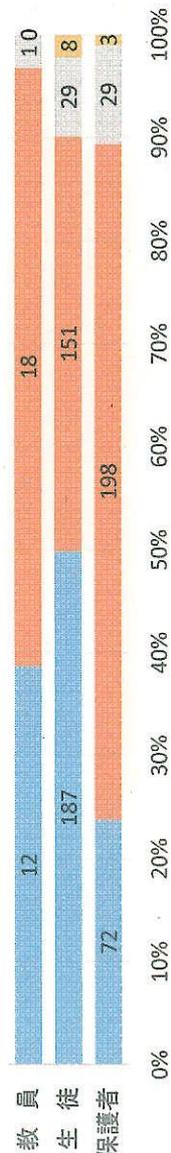
9. 物事をやり抜くことができる。



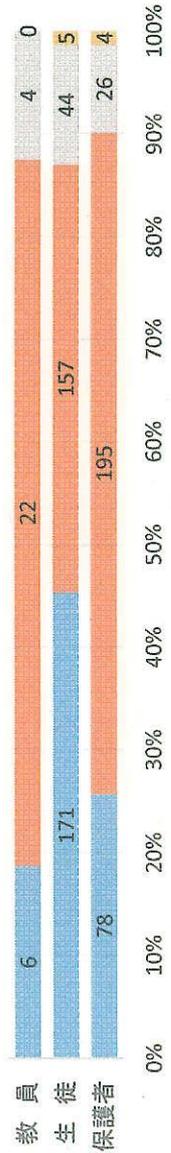
10. 学校は、「わかる授業」を進めている。



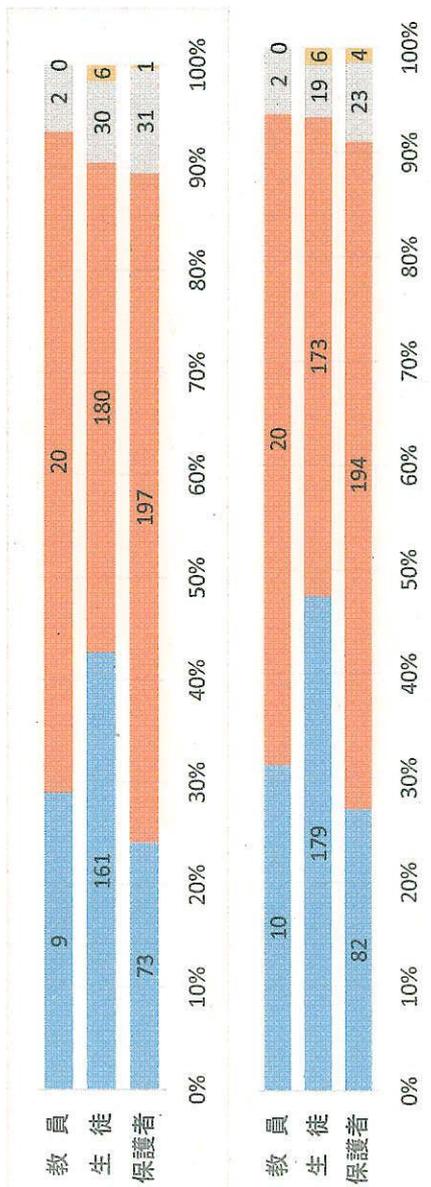
11. 学校は、ペア学習やグループ学習を積極的にやっている。



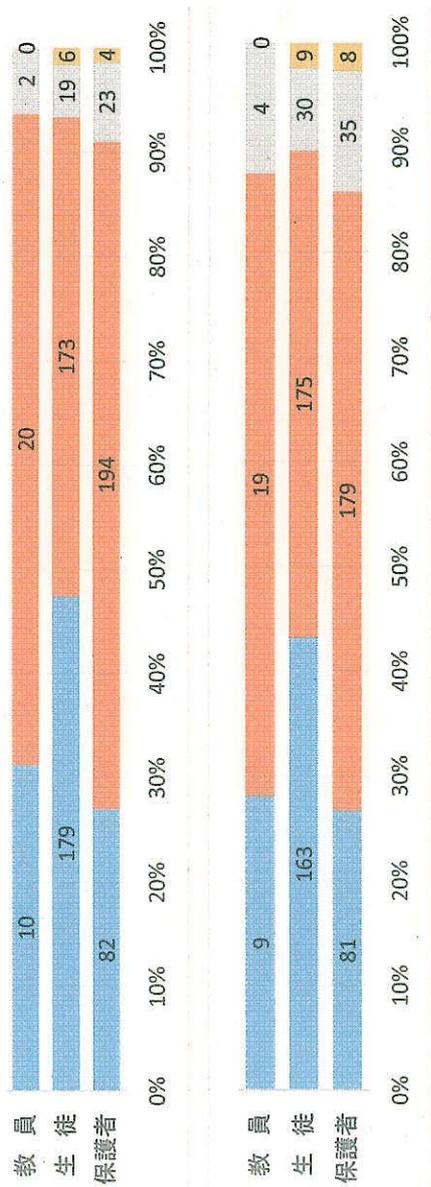
12. 学校は、登校した時や朝の会での挨拶が元気にできるように取り組んでいる。



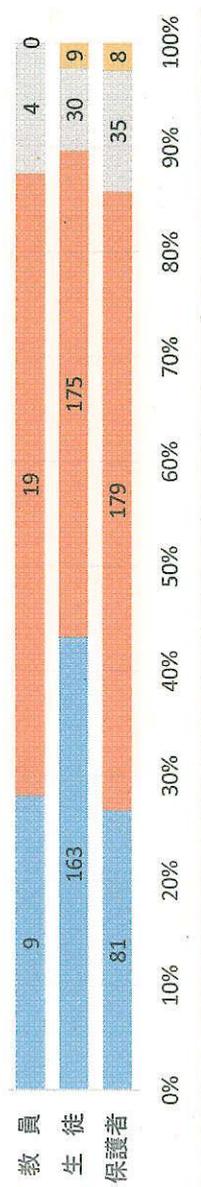
13. 学校は、たくさんの方の、いろいろな価値観（大切にしている考え方や信念）に出会う機会をつくっている。



14. 学校は、健康な体をつくるための意識を高めて、望ましい生活習慣が身につくようになっている。



15. 学校はインターネットやSNSの利用のし過ぎが、生活習慣を乱したり、心身の健康を害したりすることを知らせる機会を握っている。



## 令和8年度学校経営方針（案）について

令和7年度から大きく変更した点はありません。今年度の取組を見直しながら、より意識的に取り組んでいくことができればと思います。

- ◎ 朱書きは、令和8年度へ向けて追加及び変更した点
- ◎ 青書きは、キーワード

### 学校経営方針の主な追加・変更点

- 1 **共感**を軸にした教育活動を展開し、相手の立場や感情を理解する能力や、相手の感情を経験し共鳴する能力を養う。特に、特別活動や「総合的な学習の時間」を通じた「傾聴と対話」の積み重ねによって**自己存在感**を味わい、集団で相手を信じ助け協力する自治活動や貢献活動を展開する。
- 2 人権教育の重点化に当たり、まずは**人権感覚の育成**に取り組む。単に人権に関する知識や技能だけでなく、偏見や差別に対する感受性を養うことを含む。人権問題に関する具体的な事例についてディスカッションしたり、「いじめ撲滅宣言」の実効性を高めたりする。
- 3 「危険等発生時対処要領（緊急時対応マニュアル）」の見直しに着手する。文科省がとりまとめている「学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドライン」を踏まえ、本校の実態に即して改訂する。なお、土砂災害警戒区域にあることから、それに関する記載を追加する。
- 4 文科省は**特別支援教育に関わる教師の専門性向上**に向けた方策として、すべての教員が採用後10年目程度の間、特別支援学級の担任などを2年以上積むことが望ましいとした。このことを踏まえ、まずは全教員で研修する機会をつくることを検討する必要がある。
- 5 日常生活の中で防災を「自分のこと」として考える機会が少なく、防災意識の低さが課題としてある。「総合的な学習の時間」の体験活動に組み入れたり、避難訓練の想定内容の工夫や実効性を高めるための手立てを講じたりすることで、**考える防災教育**を進める。
- 6 本校におけるサポートルーム（校内支援センター）の役割は多岐に渡り、登校しぶりの生徒や集団生活に不適應をみせる生徒にとって、学びの場を提供し、心理的なサポートを行う場である必要がある。**学ぶ権利を保障**することは必須であり、ICTを活用した方策に取り組む。
- 7 市は学校部活動について、地域部活動（休日型・全日型）を経て、できるところから地域クラブ活動（地域スポーツ団体）へ移行していくことを推奨するものとした。主管も学校教育課からスポーツ振興課へ移り、市独自の認定制度を導入予定である。本校では、引き続き、**地域部活動休日型への移行**を推進するものとする。
- 8 校内衛生委員会は、職員の健康障害の防止、労働環境の改善、安全衛生確保の役割を果たすことになっている。先ごろ実施したアンケート調査を契機に、展開の「見える化」を進め、「**やりがい**」と「**働き方**」の**両立**のための実効性を高めていく。

1 学校教育目標

豊かな心と創造性を持ち、心身共に逞しく自己を鍛える生徒の育成

2 めざす姿

(1) めざす生徒の姿

自ら求めて学び、未来を拓く生徒 《磨く知性（知）》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋道を立てて考え、<b>根拠</b>を話すことができる生徒</li> <li>・<b>話をよく聴き</b>、自分の思いを相手に伝わるように話すことができる生徒</li> <li>・学んだことを様々な場に<b>活かそう</b>とする生徒</li> </ul>
自他を敬愛し、思いやりのある生徒 《豊かな感性（徳）》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るい返事や挨拶ができる生徒</li> <li>・他者と<b>共感</b>できる生徒</li> <li>・自他の<b>個性を認め</b>、励まし合い助け合う生徒</li> </ul>
自ら心身を鍛え、逞しく実行する生徒 《鍛える身体（体）》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な運動、食、生活習慣を身に付けた生徒</li> <li>・自らの行動をコントロールできる生徒</li> <li>・<b>物事をやり抜く</b>生徒</li> </ul>

(2) めざす学校の姿

明るく活気があり、一人一人が**主役を担うような**授業や諸活動が展開され、**生徒が毎日安心して登校する学校**

(3) めざす教職員の姿

使命感を持ってひたむきに研修に励むと共に積極的に授業改善や業務改善に取り組み、生徒の望ましい成長に指導力を発揮する教職員

- ・生徒に寄り添い、生徒と共に成長する教職員
- ・生徒、保護者との信頼関係を基本とする教職員
- ・自らの使命を自覚し、常に研修や実践に励む教職員
- ・教職員集団のレジリエンスを高め、喫緊の教育課題に**協働して取り組む**教職員
- ・歴史と伝統に学び、新たな創造に努める教職員

3 経営理念

本校は、「中東北の拠点都市」を謳う一関市の中央部に位置し、生徒が経済・文化・教育の進展を身近に感じることでできる環境にある。また、取り巻く人々は、香り高き蘭梅山を背に、平泉よりも前から栄えてきた歴史と誇りを糧にしている。しかし、教育格差の問題や、コロナ禍に伴うコミュニケーションの機会の制限などを背景に、脆弱性を抱える生徒が増えているのも事実である。将来の変化を予測するのが困難な時代に、未来へ向けて自らの人生を拓いていく力、また、自らの生涯を生き抜く力を培っていく上で、学校が担う役割は大きい。

このことから、**これまで**で築いてきた学校風土を基盤に、多様性からイノベーションを生み出すような魅力ある学校づくりを進めたい。もちろん、地域とともにある学校でなければならない。保護者や

地域と「めざす生徒像」を共有して、目標の実現に向けてともに協働していく仕組みを構築していく。

なお、憲法、教育基本法をはじめとする国の関係法規、岩手県及び一関市の教育方針に基づき、新しい時代の動向を展望しつつ、知徳体の調和のとれた生徒の育成をめざして学校教育を推進する。

#### 4 経営の重点

##### 学校経営上の課題

###### ○安全で安心な学校づくり

- ・コミュニケーション能力の発揮を通じた自己肯定感の向上
- ・登校しぶりの生徒への自立支援
- ・関係機関（児相、市福祉、医療機関等）との連携による家庭への支援

###### ○カリキュラム・マネジメント

- ・課題予防的生徒指導に努め、諸活動のPDCAサイクルをしっかりと回す
- ・特別支援学級在籍生徒や別室登校生徒の学びの保障（個の教育的ニーズに応える）
- ・総合的な学習の時間の再構築（生徒の地域貢献、地域住民の参加、職員の負担軽減）

###### ○「やりがい」と「働き方」の両立

- ・職員の負担軽減策の構築（課題予防的生徒指導の確実な実行を重視）
- ・エンゲージメントの向上による、多忙感の軽減
- ・目の前の生徒を育てるための不易と流行の見極め

##### (1) 学びの保障と自立支援

教育機会の保障について周知するとともに、学校の適応支援体制を整える。

###### ア 基本的な生活習慣・学習習慣の確立

イ 登校しぶりの生徒の学力保障

###### ウ 自立支援を担う校内支援センター（SR）の位置付け

##### (2) 総合的な学習の時間「いわいタイム」の体系化

個人の年間テーマを設定し、探究的な見方・考え方を働かせて、横断的・総合的な学習を行う。各学年のテーマを、「自分に向き合う13歳」、「社会に学ぶ14歳」、「地域につながる15歳」とする。

ア 地域に貢献する人材育成に向けたキャリア教育の推進

イ 復興・防災教育の視点からの体験活動の充実

ウ 地域人材の積極的活用

##### (3) 心が動く経験の充実

生徒が創れば**自分事化**する。心が動く活動の展開とともに、チャレンジが認められる生徒間の風土づくりを進める。

ア 合唱文化の醸成と**継承**

イ 生徒の自治活動の充実

ウ **地域人材を活用した「人から学ぶ」チャンスの創造**

エ 校内掲示物の精査、整理と工夫

#### (4) 人権感覚の育成

- ア 人権が尊重される授業づくり
- イ 視点の転換、共感の技能の向上
- ウ 自己存在感がもてる、一人一人が活躍できる場所づくり

#### (5) 「やりがい」と「働き方」の両立

- ア 話し合う場づくり
- イ 教育DXの推進
- ウ 衛生委員会の「見える化」
- エ 休日部活動の地域連携と受け皿の確保

### 5 めざす生徒の姿の実現に向けた具体的方策

#### (1) 基礎学力の定着と学力保障

- ア 「生徒の学力は授業で」を基本に、常に授業改善を心がけ授業の質の向上をねらう。
  - ・ 諸調査の問題が今求められる学力の姿の一つであることを踏まえ、指導の工夫・改善に取り組む。
  - ・ 「問い」や「思い・願い」を引き出した課題を設定し、生徒を軸とした「分かる授業」の確立を図る。
  - ・ 誤答や類題を効果的に活用するとともに、日常とのつながりの意識化を図る。
  - ・ 思考過程や表現方法を振り返り、自ら課題を見つけ問題を解決する思考方法を身につける。
  - ・ 振り返りシート（ノート）や小テストなどでの評価を随時行い、個を活かす授業を充実させる。
- イ 数学の授業を中心とした少人数指導・チームティーチングや、eライブラリーの活用の在り方を探求し、実践する。
- ウ 大型提示装置とタブレットを効果的に活用する。

#### (2) 学級・学年経営の充実

- ア 学級・学年目標を設定し、目標達成に向けて取り組む、努力する過程を大切にする。
- イ 個の状況を把握し、生徒の発達段階、目的に合致した学級・学年経営を重視する。
- ウ 客観的な調査（Q-U）などを効果的に取り入れながら、個への配慮と望ましい学級集団を育成する。

#### (3) 研究・研修の充実

- ア 教職員集団のレジリエンスを高め、喫緊の課題に迅速かつ効率よく対応できるようにする。
- イ 教科部会の充実を図り、学習指導要領の目標に即した授業研究をさらに深める。
- ウ 各種研修会、講習会、研究会へは可能な限り積極的に参加していく。

#### (4) 豊かな人間性の育成

- ア あらゆる場を活用して人権教育を推進し、人権感覚を養う。
- イ 「特別の教科道徳」の時間の充実を図るとともに、道徳教育の全体計画の中で道徳性を育成する。なお、重点的に指導する内容項目は、「相互理解、寛容」と「生命の尊さ」である。
- ウ 自校への誇りと民主主義の基本を学ばせるとともに、ボランティア活動などを通して地域に貢献する意識を醸成する。
- エ 各種行事、部活動等を通して、集団で生活するよさや価値を味わわせる。

#### (5) 特別支援教育の充実

- ア 通常学級を含めた特別な支援を要する生徒の困り感を見取り、個の発達に合わせた支援計画を

作成し指導する。

イ **通常学級と特別支援学級の確実な情報共有と連携を強化する。**

ウ 特別支援コーディネーターを中心にした、**特別支援教育に関する校内研修の充実を図る。**

エ 通常学級における、ユニバーサルデザインを取り入れた学級経営、教科指導を推進する。

オ 特別な支援を必要とする生徒の情報について、校種間で円滑に引き継げる体制を整える。

カ 教育委員会をはじめ外部機関との効果的な情報共有を図る。

#### (6) 生徒指導の充実

事故や問題行動などへの対応だけに終始しない、課題予防的生徒指導を推進する。

ア 生徒指導の三機能である「自己存在感の育成」「共感的人間関係の確立」「自己決定の場づくり」を取り入れた学級・学年経営、生徒会活動に取り組む。

イ 学校生活の中で、全校体制による規範意識の向上を図る。

ウ 情報モラル教育（情報社会の倫理、法の理解と遵守、安全への知恵など）の充実を図り、特に SNS 利用時の注意点について指導する。

エ 適宜、各小学校との連携に努めるとともに、関係機関との連携強化を進める。

オ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの丁寧な情報共有を図る。

#### (7) 体力向上と健康づくり

ア 体力・運動能力の向上に向け、日常の授業を工夫し年間を通して様々な運動に取り組む。

イ 生涯体育の基礎として運動の楽しさを習得させる指導を進める。

ウ 健康づくりのための環境整備と安全確保に努める。

（食育指導の充実、安全な生活のための指導の充実、疾病の予防と早期治療の奨励など）

#### (8) キャリア教育の推進

ア 体験活動を有意義なキャリア教育の機会とするために、教科の学習や日常生活と関連づけ、将来の生き方との接続を意識した事前指導・事後指導を行う。

イ 地域や産業との関係性をより強化し、社会に出た後のことや、人生 100 年時代を踏まえた教育を実施する。

ウ キャリア・パスポートを活用して学びの足跡を可視化し、「将来の夢」と「今学校で学んでいること」のつながりを意識した指導を進める。

#### (9) 「いわての復興教育」の実施

ア 「自分の命は自分で守る」を基本に防災・安全について意識し、行動しようとする態度を育てる。

イ 東日本大震災の経験を風化させぬよう、月命日の朝読書では、復興副読本「いきる・かかわる・そなえる」や震災関連の資料を取り扱う。

ウ 生徒の安全意識の醸成のため、想定内容を工夫したり、訓練の実効性を高める手立てを組んだりする。

#### (10) 実践的ボランティア教育、国際理解教育、環境教育の展開

ア 個々の生徒の興味・関心に応えるボランティア活動の機会を提供し、事後の振り返りも行う。

イ 国内における共生の取り組みについて理解するとともに、自国の文化の理解を深める。

ウ エネルギーの効率的な利用など、環境への負荷が少なく持続可能な社会を構築することが大切なことを理解する。

#### (11) 読書指導や図書館利用の促進

- ア 朝読書を継続して、活字に触れる習慣づくりを行う。
- イ 読書普及員と連携し、本への興味や関心を高めることができる図書館づくりを進める。
- ウ 図書委員会の活動を支援し、読書活動の先導役を担わせる。

(12) 地域とともに歩む学校づくりの推進

- ア 授業参観、面談、学級懇談会などを通して保護者・地域住民との情報共有を行い、相互理解や連携を深める。
- イ 学校運営支援協議会との関わりを強化し、諸活動への地域人材の派遣などをお願いする。
- ウ 目標達成型の学校経営を実現させるため、常にPDCAサイクルを意識した学校評価を定期的  
に実施し、地域や保護者と情報共有を行う。

6 魅力ある学校づくりの推進

(1) 「当たり前が光る」3つの伝統的取組

清掃【場を清め】、時間意識【時を守り】、挨拶【礼節を重んじる】

- ア 生徒会活動との連動を図り、生徒の主体的取組を推進する。
- イ 家庭事情に配慮しつつ、めざす姿を保護者と共有し続ける。
- ウ 評価の仕方を工夫して、学期ごとに成果と課題を生徒と共有する。

(2) 合唱文化の醸成

- ア 年間スケジュールに基づき、計画的に合唱づくりを進める。
- イ 合唱部の発表の機会を保障し、自ら先導的役割を担っていくよう支援する。
- ウ 合唱小アンサンブルコンテスト(1月)へ、2学年を中心とした特設合唱部の出場を奨励する。

(3) 地域人材の積極的活用

- ア 「総合的な学習の時間」を中心に、広く地域人材を招聘して活用する。
- イ 小学校での学習歴を踏まえた上で、学校運営支援協議会を通じて依頼する。
- ウ 本校独自の人材バンクをつくり、蓄積していく。

<参考資料>

令和8年度生徒数・学級数 (R8.2.15 現在)

通常学級					特別支援学級 (知的)					特別支援学級 (自閉・情緒)				
	新1年	新2年	新3年	計		新1年	新2年	新3年	計		新1年	新2年	新3年	計
人	130	133	149	412	人	2	6	4	12	人	2	5	6	13
組	4	4	5	13	組	1			2	組	1			2

今後の生徒数の推移

年 度	R7					R8					R9					R10					R11					R12				
	一	二	三	小計	合計	一	二	三	小計	合計	一	二	三	小計	合計	一	二	三	小計	合計	一	二	三	小計	合計	一	二	三	小計	合計
生 徒 数	133	148	144	425	455	143	133	148	424	454	135	143	133	411	439	153	135	143	431	456	133	153	135	421	449	108	133	153	394	427
〃 (特別支援)	11	12	7	30		7	11	12	30		10	7	11	28		8	10	7	25		10	8	10	28		15	10	8	33	
学 級 数 (小計最下段特別支援学級数)	4	5	5	6	20	5	4	5	4	18	4	5	4	4	17	5	4	5	4	18	4	5	4	4	17	4	4	5	6	19

# 磐井中学校まなびフェスト

## 学校教育目標

豊かな心と創造性を持ち、心身共に逞しく自己を鍛える生徒の育成

自ら求めて学び、未来を拓く生徒

自他を敬愛し、思いやりのある生徒

自ら心身を鍛え、逞しく実行する生徒

## めざす生徒の姿

### 知 磨く知性

- 筋道を立てて考え、根拠を話すことができる生徒
- 話をよく聴き、自分の思いを相手に伝わるように話す生徒
- 学んだことを様々な場に活かそうとする生徒

### 徳 豊かな感性

- 明るい返事や挨拶ができる生徒
- 他者と共感できる生徒
- 自他の個性を認め、励まし合い助け合う生徒

### 体 鍛える身体

- 基本的な運動、食、生活習慣を身に付けた生徒
- 自らの行動をコントロールできる生徒
- 物事をやり抜く生徒

## 学校の到達目標

- わかる授業を展開します。  
…生徒の肯定的評価目標80%
  - ペアやグループなど、共同学習を活性化させます。  
…生徒の肯定的評価目標85%
- 《取り組み》
- ①基本的な学習過程を定着させ、自分の考えを表現する場の充実に努めます。
  - ②共同学習の充実を図り、探究的な学習の質を高めます。

- 登校時の挨拶と、授業の始まりの挨拶を元気にを行います。  
…生徒の肯定的評価目標75%
  - 多様な価値観にふれる機会をつくれます。  
…生徒の肯定的評価目標80%
- 《取り組み》
- ①生徒会活動と連携します。
  - ②道徳の授業や総合的な学習の時間で、協働学習の充実を図ります。

- 健康な体づくりへの意識を高め、生活習慣を確立します。  
…生徒の肯定的目標75%
  - メディアの過度な利用が生活習慣や心身の健康に関与していることを学ぶ機会を増やします。  
…生徒の肯定的目標80%
- 《取り組み》
- ①望ましい生活習慣について、繰り返し注意喚起します。
  - ②調査をし、実態を可視化します。

## 家庭と連携して

- 家庭学習を毎日続けます。
- 適正なメディアコントロールを行います。
- 読書に親しみます。

- あいさつを交わします。
- 時間を守って行動します。
- 「ありがとう」等、相手の心を温かくする言葉遣いをします。

- 必ず朝食を摂ります。
- 十分な睡眠時間を確保します。
- 適度な運動習慣を確立し、登校の仕方等を工夫します。

## 地域とともに、心豊かな生徒を育てます。

- 《コミュニティ・スクール》
- 学校運営支援協議会を通じて目標やビジョンを共有していく「地域とともにある学校づくり」を推進
- 1 めざす生徒の姿の共有
  - 2 学校HPを活用した情報発信
  - 3 連携・協働のあり方の検討

- 《地域の教育人材・資源の活用》
- 1 人材、団体、自然、地域産業、文化財、施設等の有効活用
  - 2 地域学校協働活動との連携（教育活動支援、環境整備支援、学校安全支援）
  - 3 区長会、民生児童委員連絡協議会との意見交換

- 《保護者と連携した部活動改革》
- 将来にわたり活動に継続して取り組むことができる環境の整備
- 1 休日の部活動の、段階的な地域展開等に伴う、新たな課題への対応
  - 2 自己肯定感を高めることができる活動のあり方の理解と共有

※『まなびフェスト』は学校の到達目標について、生徒の参加や家庭の協力、地域との連携を図りながら達成をめざすものです。

令和7年度 学校運営支援協議会



一関市立磐井中学校